

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	570809822
法人名	グリーンステージ有限会社
事業所名	グループホーム大仙大曲
所在地	秋田県大仙市大曲字福辺内3-1 (電話) 0187-62-7333
評価機関名	秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成20年10月21日

【情報提供票より】 (年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算	10.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり		30,000 円

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	2名	要介護2	6名			
要介護3	1名	要介護4				
要介護5		要支援2				
年齢	平均	76.2歳	最低	55歳	最高	86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・仙北組合病院・荒井医院・畠山歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>自然豊かで、落ち着いた静かな環境に建つグループホームである。デイサービスが併設されており、地域に暮らす利用者と触れ合いながら、利用者らは生き生き暮らしている。代表者と管理者、職員は自由に意見を出し合いながら介護サービスの質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の外部評価では要改善点はなかったが、利用者の安心と尊厳のため自立した生活が続けられるよう支援体制強化に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	職員一人一人が自己評価の意義を理解し、それぞれの立場で評価を行い、管理者を中心として事業所全体の自己評価を行っていた。職員もグループホームの特徴を踏まえ利用者の認知症と向き合いながら自立した生活を支援している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催しており、グループホームの現状と課題を話し合い、サービス向上へと取り組んでいる。会議で出された意見は速やかに改善できるよう検討している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族とはどんなことでも話し合える関係作りに心がけており、積極的に関わりを持つようにしている。苦情についてはこれまでなかったが、今後、苦情や意見が出された場合は全員で情報を共有して、前向きに検討する姿勢である。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	デイサービスも併設されているので近所の方々との交流もできている。行事があるときは町内にも案内を出し、参加してもらっている。町内の芸能ボランティアも定期的に受け入れており、地域に根ざした支援をしている。

2. 評価報告書

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に溶け込んだグループホームを目指し、「人に地域に明るさと希望に満ちあふれた場と環境を提供する」を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、代表者・管理者・職員が一丸となり、自分の家族と暮らしているような、安心した暮らしの継続が出来るよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事があるときは、町内にも案内を出し参加してもらっている。町内の芸能ボランティアも定期的に受け入れており、地域に根ざした支援をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、代表者・管理者・職員はそれぞれの立場で、自己評価を踏まえて運営に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に開催され、利用者の状況や課題についての話し合いが行なわれており、記録されている。会議で出された意見は速やかに改善できるよう検討し、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険事務所の担当者とは連絡を密にとり、利用者の状況やグループホームの運営についても相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料の請求書と一緒にお便りを発行している。お便りには、行事や利用者の生活状況や健康状態を担当の職員が記載している。預かり金の出納内容についても報告しており、家族の確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け窓口については、契約書に記載されており、契約時に説明している。また、玄関には意見箱が設置されている。これまで意見や苦情は無いが、これからも前向きに検討する姿勢である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで職員や管理者の交代はあったが、利用者が新しい職員によって混乱を起さぬよう、馴染みの職員が支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、職員の希望も取り入れながら計画し、業務として参加している。グループホーム協議会の研修等に出席しており、研修内容については全体会議で報告し、職員全員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ協議会の研修会や懇親会等に、積極的に参加して情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居時は体験入居をしており、他の利用者や職員と馴染みの関係を作り、安心して入居してもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、普段の関わりの中から、利用者がこれまで培ってきた経験や知識に教わりながら、生活を共に過ごしている。何気ない洗濯物のたたみ方や料理や季節毎の行事等、日常生活や会話から学ぶことは多く、職員と利用者が支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人、家族の意向に添ったケア計画により、充分検討しながら日々の介護に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は、利用者個々に職員や家族の意見を聞きながら作成されている。家族の協力が必要な場合は積極的に働き掛け、チームとしての介護計画の作成に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的な見直しが行なわれ、状況の変化に応じて、ミーティングや全体会議・家族の意向も踏まえ話し合い、見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスも併設されており、地域に暮らすお年寄りとも馴染みの関係ができています。また、医療的な管理についても職員である看護師を通じ、適切に主治医や協力病院と連携がとれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで馴染んできた主治医をできるだけ変えずに、職員が通院支援している。また、協力歯科医も確保されており、協力が得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、それにふさわしい施設を紹介しているが、事業所として実際に終末期まで継続して生活を支援できるのか、今後の方針や支援の在り方については模索中である。	○	利用者が更に年齢を重ね、身体機能の低下も予測されるなかで、家族の意向を踏まえたマニュアルや体制整備が望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーにも配慮した対応を行っている。また個人情報についても同意書を交わし、取扱いに配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよそのスケジュールは決まっているがスケジュールをこなす事だけになっていないか、日頃から意識して利用者との会話から希望を引き出して支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、メニューを決める段階から利用者と話し合い、一緒に取り組んでいる。食事後の後片付けも、職員がサポートしながら利用者と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	ほとんどの利用者は午後に入浴しているが、希望があればいつでも入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節毎の行事や毎日の食事作り等、長年利用者が身につけて行ってきたことを尊重しながら、役割を見つけて支援している。外出や買い物も、職員が付き添いながら、利用者の能力に合わせて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設されているデイサービスへ出向き、近所の方々と交流したり、一緒に過ごしたりしており、日常的に外出や散歩を支援している。また、庭には畑があり、手入れや収穫を職員と一緒にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	居室にはカギはかかっている。玄関も自由に出入りが出来るようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、昼・夜を想定して年に2回実施している。救命救急についても、消防署の協力を得て毎年実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個人毎に記録され、刻み食やとろみをつけた食事が提供されている。栄養バランスについても、市の管理栄養士と相談できる体制ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中のほとんどを過ごしている居間は、居心地良い空間となっている。季節感のある装飾をする等、工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や寝具は全て持ち込みとなっており、使い慣れたベッドやふとん・テーブルがあり、本人が居心地よく過ごせる居室となっていた。		

※ は、重点項目。